

2005年4月15日

---



# 第7期(2005年8月期) 中間決算のご説明

フューチャーベンチャーキャピタル株式会社

この資料での数値は、特に指定がない限りすべて2005年2月28日現在です。

# 1. フューチャーベンチャーキャピタルについて

# FVCの概要



ヘラクレス上場  
コード8462

**フューチャーベンチャーキャピタル株式会社**  
(英語表記: Future Venture Capital Co., Ltd.)

資本金	11億3625万円	役員	代表取締役社長	川分陽二
			専務取締役	大橋克己
設立年月	1998年9月		取締役投資本部長	木村美都
			取締役事業推進本部長	城下悦夫
業務内容	ベンチャーキャピタル業務		取締役	金田泰明(非常勤)
			監査役	烏野伊蔵
従業員数	44名 (2005年4月1日現在)		監査役	岡部陽二(非常勤)
			監査役	小川忠久(非常勤)

## 代表取締役社長 川分陽二



1953年5月生まれ。滋賀県彦根市出身。京都大学法学部卒業。

1977年、住友銀行(現・三井住友銀行)入行。1989年、日本アセアン投資(現・日本アジア投資(株))入社。投資部長、大阪支店長、審査部長、業務推進部長等を経て1997年6月取締役に就任。大阪支店長在任中(1992年より4年間)に、関西圏の未公開企業28社に対して約30億円を投資し、9社が公開・上場を達成。

1998年、フューチャーベンチャーキャピタル(株)を設立し代表取締役に就任。日本で初めての投資事業有限責任組合(フューチャー一号投資事業有限責任組合)を設立。

2001年10月、FVC設立からわずか3年でナスダック・ジャパン(現・大証ヘラクレス)に上場を果たす。

2005年3月末現在、ファンド116億円、投資累計161社83億円、投資残高143社70億円、投資先上場数10社となっている。

## 概観

個人創業独立系

京都本社

ヘラクレス上場

## 投資育成哲学

リスク・リターンバランス

現場主義

三方良し

米国VCの良さと  
日本の社会風土を融合させ

**企業家の夢の実現を応援**

## 活動領域

アーリーステージ重点

ものづくり重視

地方展開

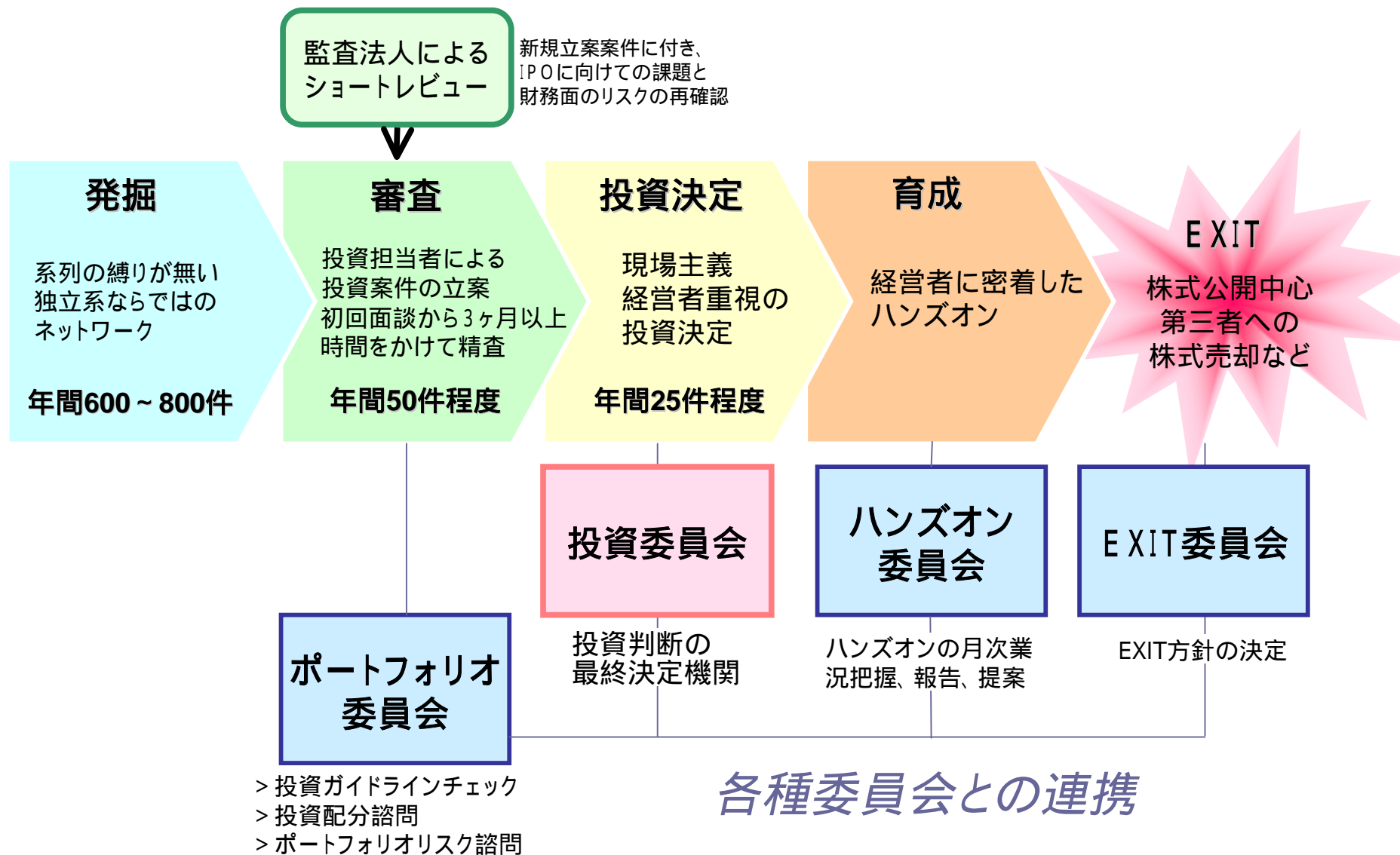
## 運営

ハンズオン型

地域プラットフォーム構築

積極的なディスクローズ

# FVCのベンチャー企業投資プロセス



---

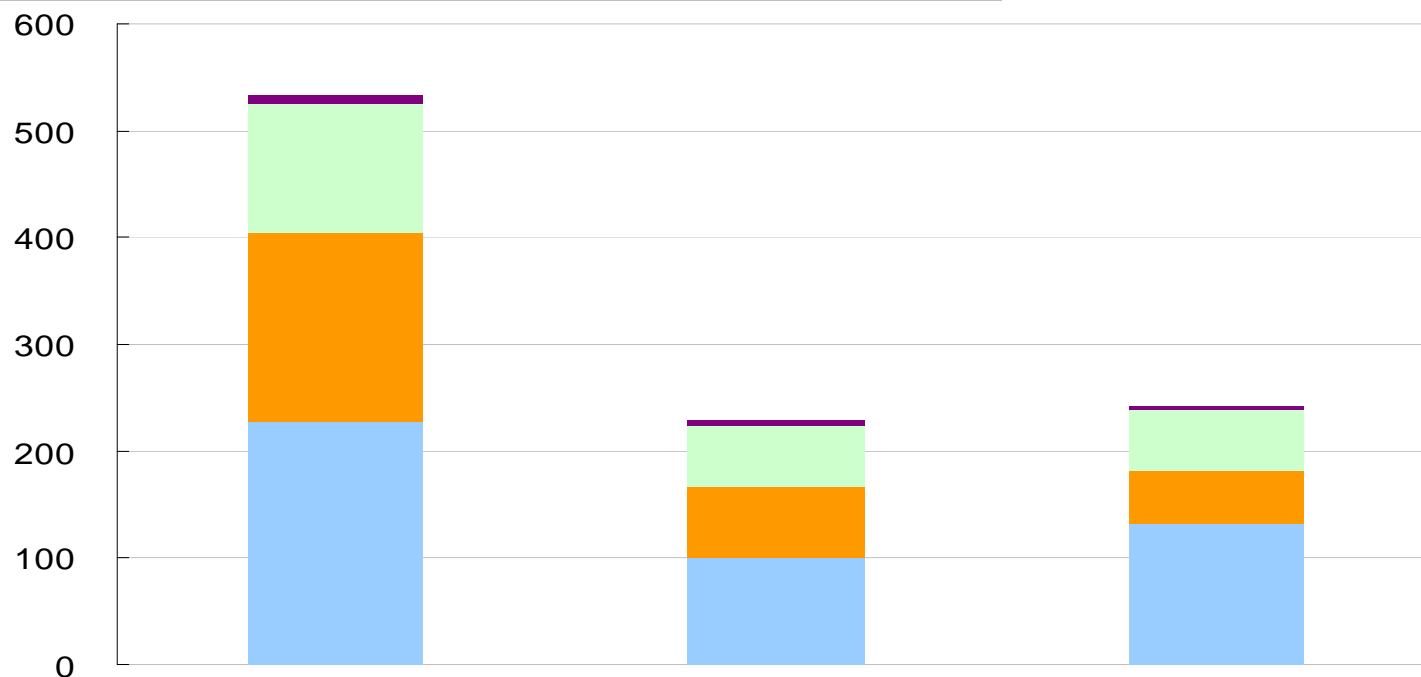
## 2. 第7期(2005年8月期)中間決算の概要

# 第7期(2005/8月期)中間決算

(単位:百万円)	2004/8月期(中間)	2005/8月期(中間)	増減
売上高	230	244	+ 14
営業利益	-36	-57	-21
經常利益	-36	-66	-30
中間純利益	-38	-69	-31
株主資本	1,045	1,017	-28
総資産	1,747	2,348	+601
株主資本比率	59.8%	43.3%	-16.5%

# 売上高の内訳

(単位:百万円)



(単位:百万円)

	2004/8月期		2004/8月期(中間)		2005/8月期(中間)	
投資事業組合等管理業務	227	42.6%	101	44.2%	131	53.8%
うち成功報酬	7		3		8	
コンサルティング業務	121	22.6%	57	24.9%	57	23.6%
営業投資有価証券売上高	177	33.2%	66	29.0%	50	20.9%
その他	8	1.5%	4	1.9%	4	1.7%
計	535	100.0%	230	100.0%	244	100.0%



## アーリー投資の結果が出るようになってきた

2004年10月に投資先企業3社が上場

<b>(株)ワイズマン</b> 岩手県盛岡市	ジャスダック 2004/10/18	3752	医療・福祉施設向けコンピュータシステムの開発および販売
---------------------------	----------------------	------	-----------------------------

「いわてインキュベーションファンド」県内第1号投資企業

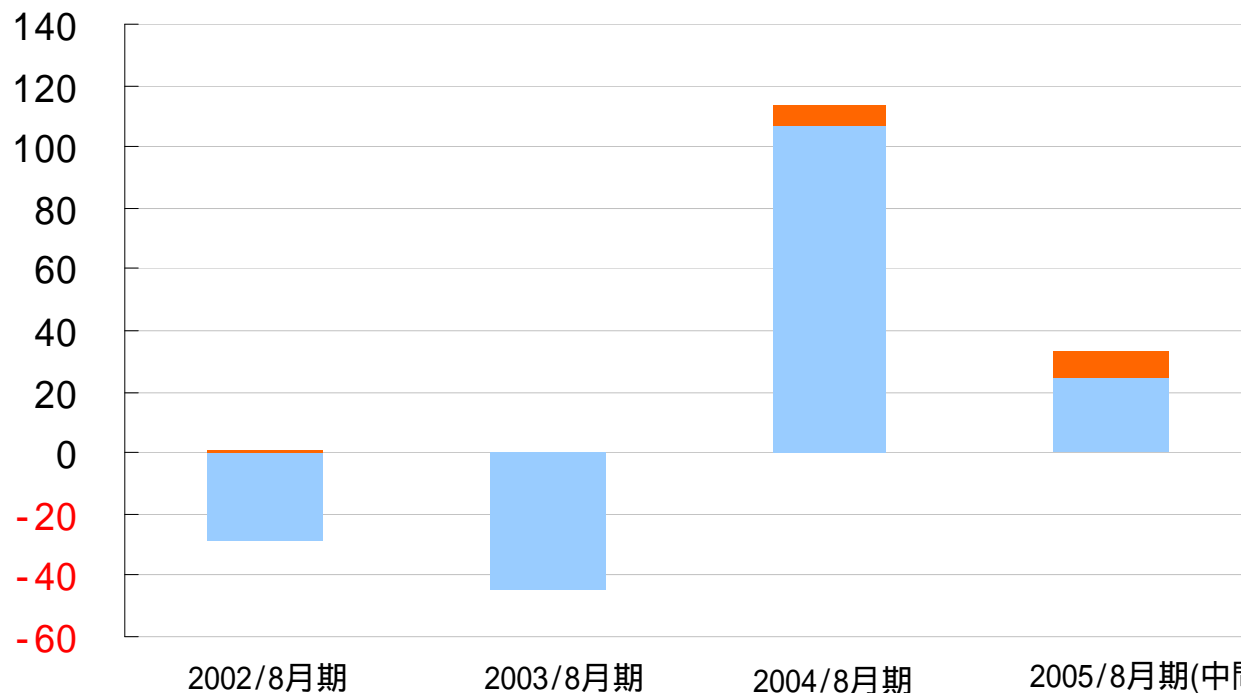
初値ベース投資倍率 **10倍**

<b>(株)カワムラサイクル</b> 兵庫県神戸市	東証マザーズ 2004/10/26	7311	車椅子(手動、電動、チタン製、アルミ製、スチール製)の製造・販売
------------------------------	----------------------	------	----------------------------------

<b>21LADY(株)</b> 東京都千代田区	名証セントレックス 2004/10/28	3346	1.ライフスタイル産業の総合支援事業 2.リテイルチェーン専門ファンドの運営とファンドを用いたインキュベーション事業
-----------------------------	-------------------------	------	---

# キャピタルゲイン/ロスと成功報酬

(単位:百万円)



(単位:百万円)

	2002/8月期	2003/8月期	2004/8月期	2005/8月期(中間)
成功報酬	1	0	7	8
営業投資有価証券売上高	24	33	177	50
営業投資有価証券売上原価	53	78	70	25
キャピタルゲイン/ロス	-29	-45	107	25

キャピタルゲイン/ロス = 営業投資有価証券売上高 - 営業投資有価証券売上原価

# 第7期中間期に増加したファンド額

## 【新設ファンド】

2組合 4.5億円

2004年11月 **モック・FVC・一号投資事業有限責任組合** 1.5億円

株式会社モックと連携して投資先を発掘育成するファンド。出資受入中。

2005年2月 **投資事業有限責任組合やまとベンチャー企業育成ファンド** 3億円

奈良県から出資を受ける自治体ベンチャーファンド。増額を予定。

## 【既存ファンドの増加】

5.7億円

**みえ新産業創造投資事業有限責任組合** 3.4億円

6.6億円 10億円

**フューチャー・ブイビー投資事業有限責任組合** 1.8億円

4.1億円 5.9億円

**フューチャー七号投資事業有限責任組合** 0.5億円

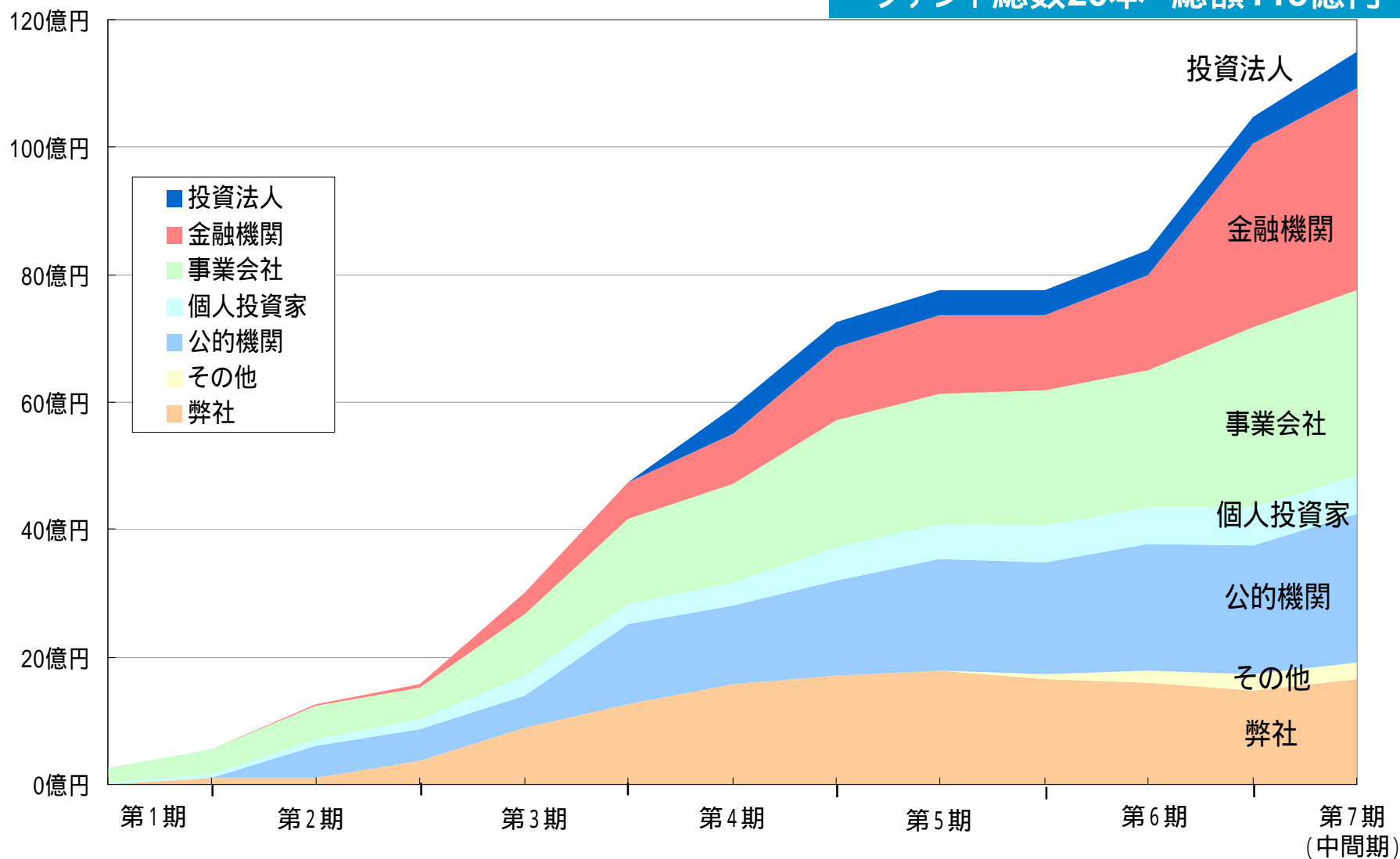
1.5億円 2億円(出資受入中)

以上から、第7期中間期に増加したファンド額は、

10.2億円

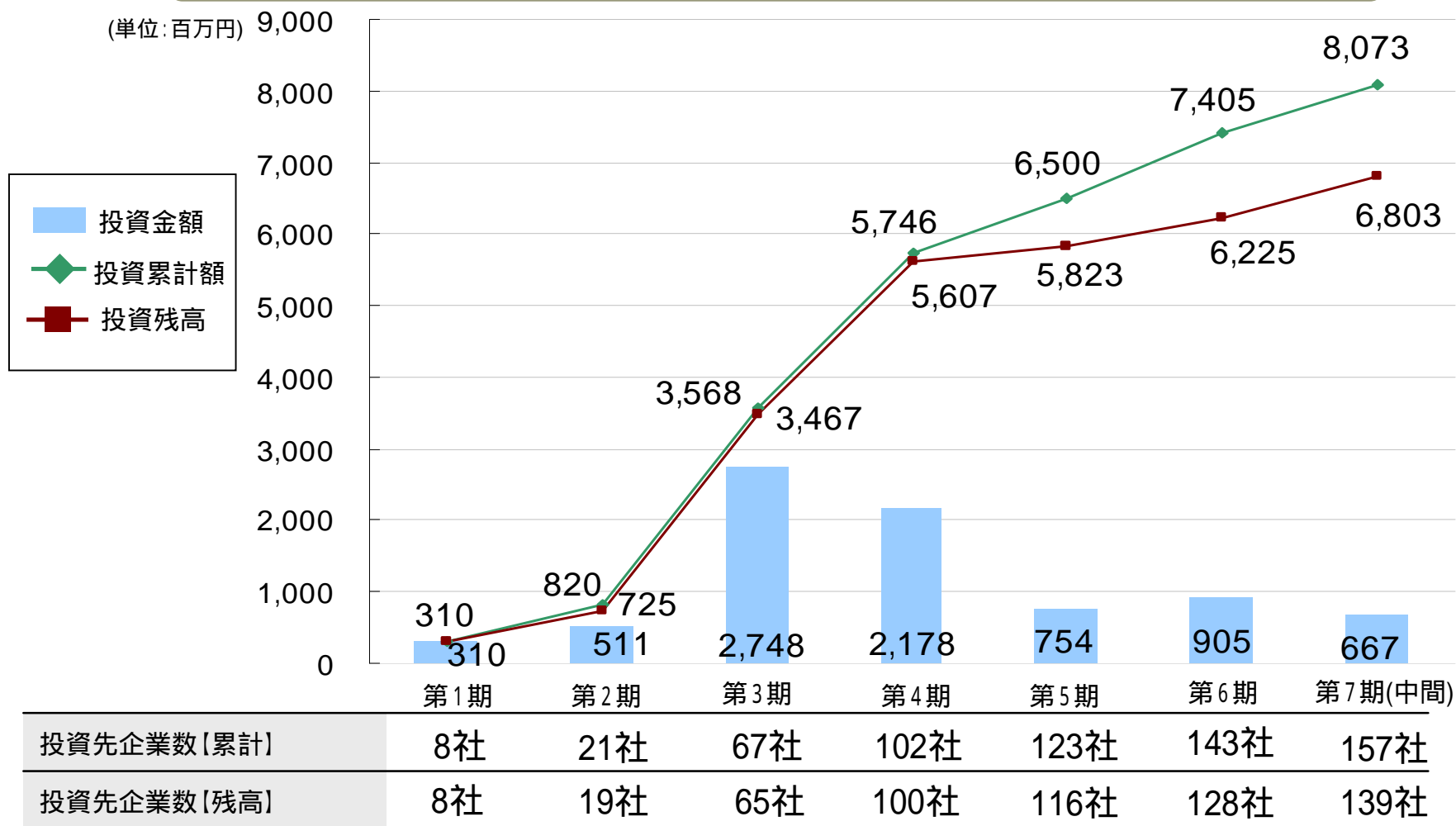
# ファンド出資者構成の推移

ファンド総数20本 総額115億円



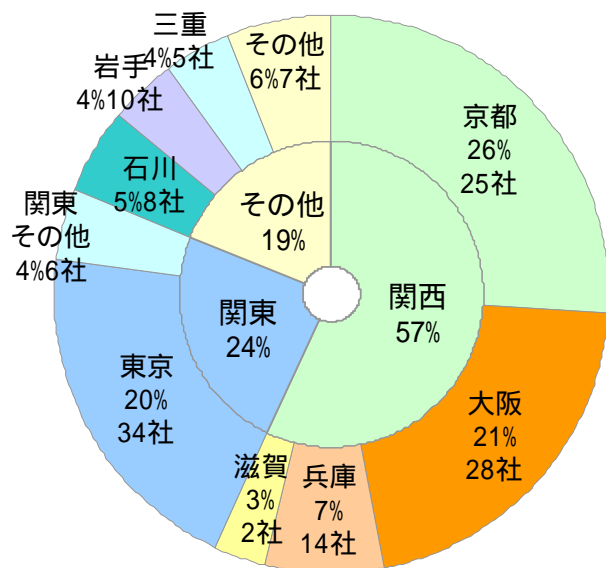
# 投資金額の推移(本体+組合)

第7期中間期の投資実行額 667百万円 24社

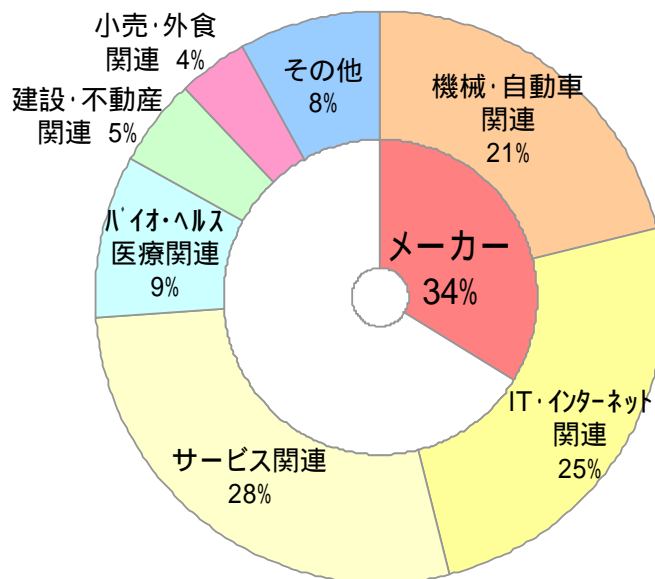


# ポートフォリオ概観

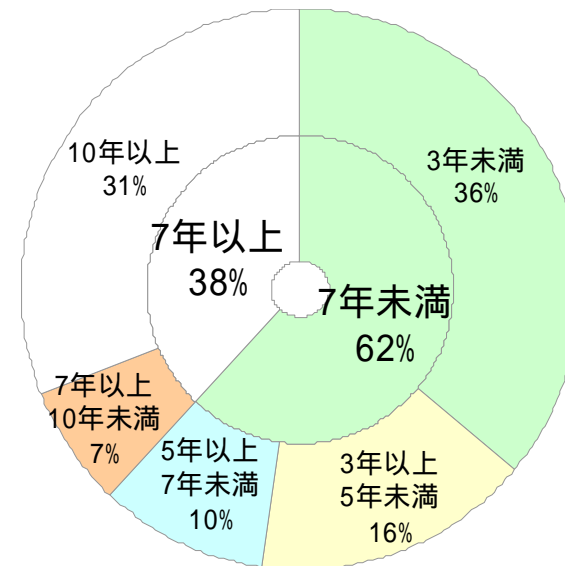
地域別(金額ベース)



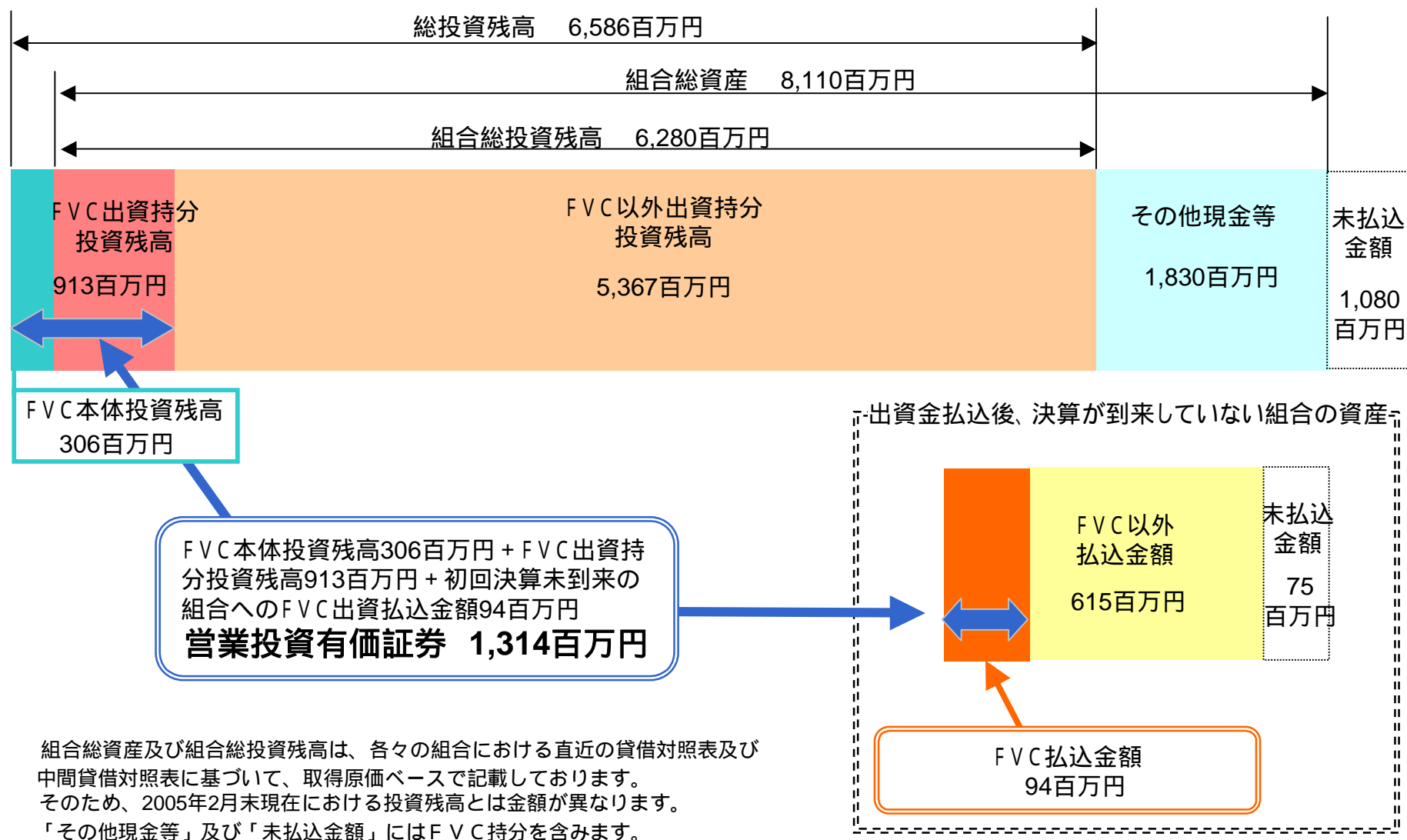
業種別(金額ベース)



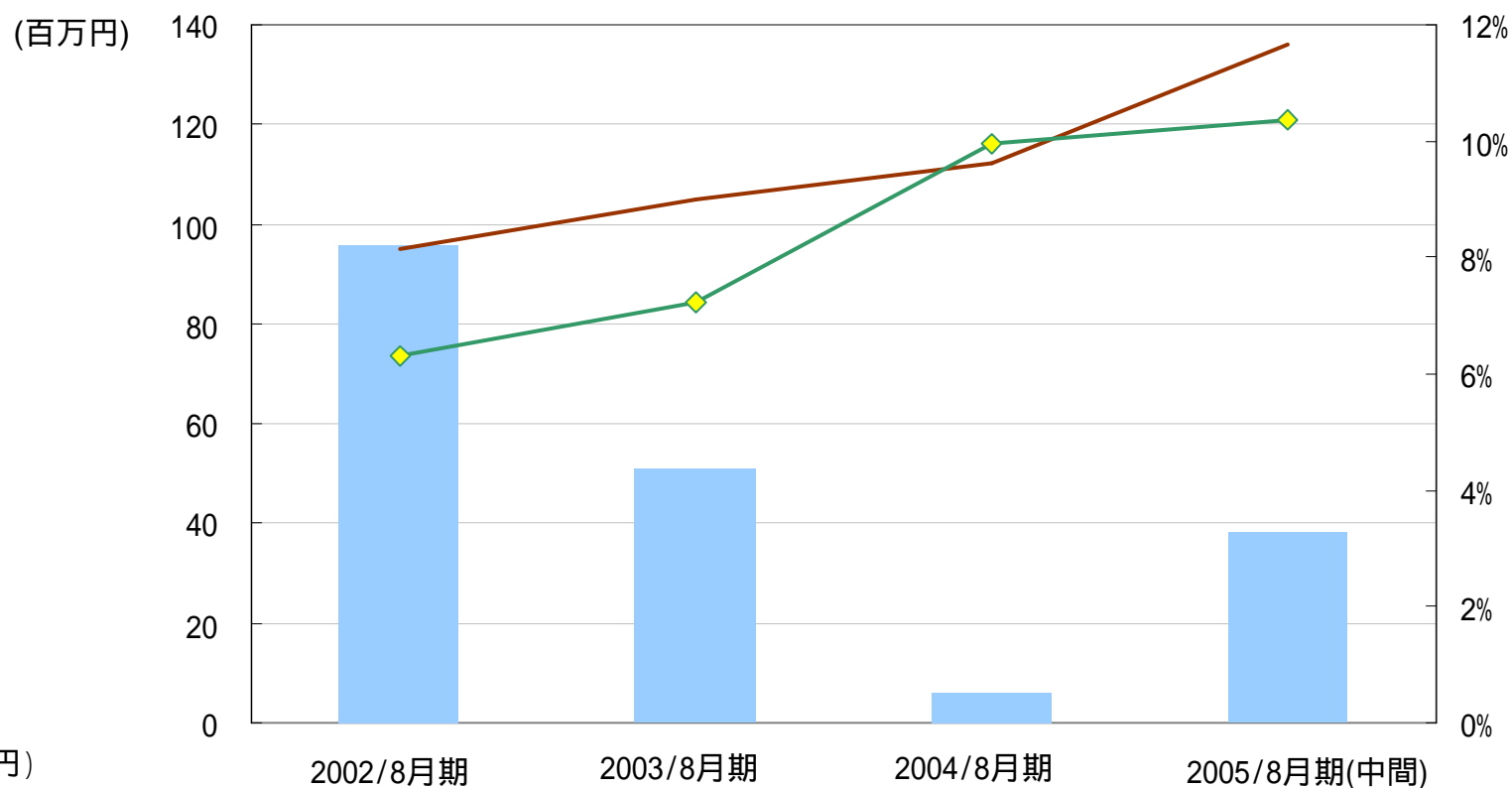
設立年別(金額ベース)



# 営業投資有価証券と運用資産



# 投資損失引当金の推移



営業投資有価証券	1,506	1,455	1,127	1,314
引当金繰入額	96	52	6	38
引当金残高	96	106	112	136
営業投資有価証券に対する引当率	6.4%	7.3%	10.0%	10.4%



---

## 3 . 參考資料

# (参考資料) 直近5カ年の業績推移

(単位:百万円)

	第2期 2000/8	第3期 2001/8	第4期 2002/8	第5期 2003/8	第6期 2004/8	第7期(中間) 2005/8(中間)
売上高	136	355	409	362	535	244
うち投資事業組合等管理業務 (うち成功報酬)	51 (0)	132 (0)	213 (1)	220 (0)	227 (7)	131 (8)
うち営業投資有価証券売上高	7	44	24	33	177	50
うちコンサルティング業務	75	171	162	100	121	57
売上原価	52	161	372	440	354	211
うち営業投資有価証券売上原価 A	4	43	53	78	70	25
うち投資損失引当金繰入額	-	-	31 B	51	6	38
販売費及び一般管理費	71	164	195	150	167	90
営業損益	12	29	-158	-228	13	-57
経常損益	9	29	-160	-224	9	-66
当期(中間)純損益	8	24	-227	-204	4	-69
営業活動によるキャッシュ・フロー	-204	-870	-647	-93	251	-225
投資活動によるキャッシュ・フロー	-2	-9	-21	-3	-18	-25
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,102	105	553	163	-135	765
現金及び現金同等物期末残高	990	215	100	166	263	778

A 減損額を含めております。

B 第4期ではこのほか、「過年度投資損失引当金繰入額」64百万円を特別損失で計上しております。

# (参考資料) 直近5カ年の業績推移

(単位:百万円)

	第2期 2000/8	第3期 2001/8	第4期 2002/8	第5期 2003/8	第6期 2004/8	第7期(中間) 2005/8(中間)
営業投資有価証券	265	139	1,505	1,454	1,126	1,314 C
営業出資金	-	1,077	60	1	105	-
投資損失引当金	-	-	95	105	112	136
<b>負債</b>	<b>51</b>	<b>212</b>	<b>509</b>	<b>658</b>	<b>547</b>	<b>1,331</b>
うち、新株予約権付社債 D	-	-	-	-	-	500
うち、間接ベンチャーキャピタル 制度 Eを利用	30	135	205	205	304	284
株主資本	1,222	1,247	1,287	1,090	1,089	1,017
株主資本比率	96%	85%	71%	62%	66%	43%
資産合計	1,273	1,460	1,797	1,748	1,636	2,348

(単位:円)

1株当たり当期(中間)純損益	1,652	1,276	-10,821	-9,296	194	-3,153
1株当たり当期(中間)株主資本	126,911	64,759	58,553	49,598	49,546	46,269

C 営業投資有価証券

従来「営業出資金」という表示科目で開示していた金額94百万円が含まれています。

D 新株予約権付社債

資金用途は、当社が設立を計画している投資事業組合への自社出資です。

E 間接ベンチャーキャピタル制度

自治体のベンチャー支援財団が民間ベンチャーキャピタルに投資原資を預託し、間接的にベンチャーへの投資を行う制度。  
投資は新株予約権付社債で行われます。ベンチャー支援財団は預託した投資原資の7割を債務保証します。

# (参考資料) 運営中のファンド一覧

ファンド総数20本 総額116億円



2005年3月末現在

組合名(通称)	組合設立年月	総額(百万円)	特色
フューチャー一号ファンド	1998/11	250	日本初の投資事業有限責任組合
フューチャー二号ファンド	1999/06	1,000	中小企業総合事業団が初めて民間VCに出資
フューチャー三号ファンド	2000/08	1,250	「特定投資事業組合」の確認を受けたファンド
フューチャー四号ファンド	2001/07	1,150	「特定投資事業組合」の確認を受けたファンド
フューチャー五号ファンド	2002/01	720	「特定投資事業組合」の確認を受けたファンド
フューチャー六号ファンド	2002/07	140	
フューチャー七号ファンド	2004/08	150	最新のFVCゼネラルファンド【出資受入中】

## 自治体主導型ベンチャーファンド

石川県ベンチャー育成ファンド	2001/02	1,500	地方の自治体ファンドでは日本で初めてのファンド
いわてインキュベーションファンド	2002/04	1,000	東北地域では初めての自治体ファンド
みえ新産業創造ファンド	2004/01	1,000	三重県地元密着型の自治体ファンド
やまとベンチャー企業育成ファンド	2005/02	300	奈良県地元密着型の自治体ファンド【増加予定】

## 二人組混合型ベンチャーファンド

つくばベンチャーファンド	2004/03	500	(株)関東つくば銀行とのファンド
アーバン・エフブイシーベンチャー育成ファンド	2004/08	300	(株)関西アーバン銀行とのファンド
えひめベンチャーファンド2004	2004/08	500	(株)愛媛銀行とのファンド
ニッセン・フューチャー1号ベンチャー支援ファンド	2004/08	600	(株)ニッセンとのファンド

# (参考資料) 運営中のファンド一覧

ファンド総数20本 総額116億円



## 特色あるベンチャーファンド

2005年3月末現在

組合名(通称)	組合設立年月	総額(百万円)	特色
フューチャーVBファンド	2001/11	595	ベンチャービジネス証券投資法人(大証上場)から出資
フューチャーエンジェル一号ファンド	2002/04	84	一口100万円の個人向けエンジェルファンド
京都イノベーション育成ファンド	2002/05	60	大学発ベンチャーを投資対象とする産学連携ファンド
関西を元気にするファンド	2002/07	200	「関西を元気にする会」と組成したファンド
モック・FVC1号ファンド	2004/11	250	株式会社モックと連携して投資先を発掘・育成するファンド 【出資受入中】

(参考資料)

# 投資担当者人員配置

常勤役職員数 45名

投資担当者数 30名

京都本社  
投資担当者 16名

東京支店  
投資担当者 6名

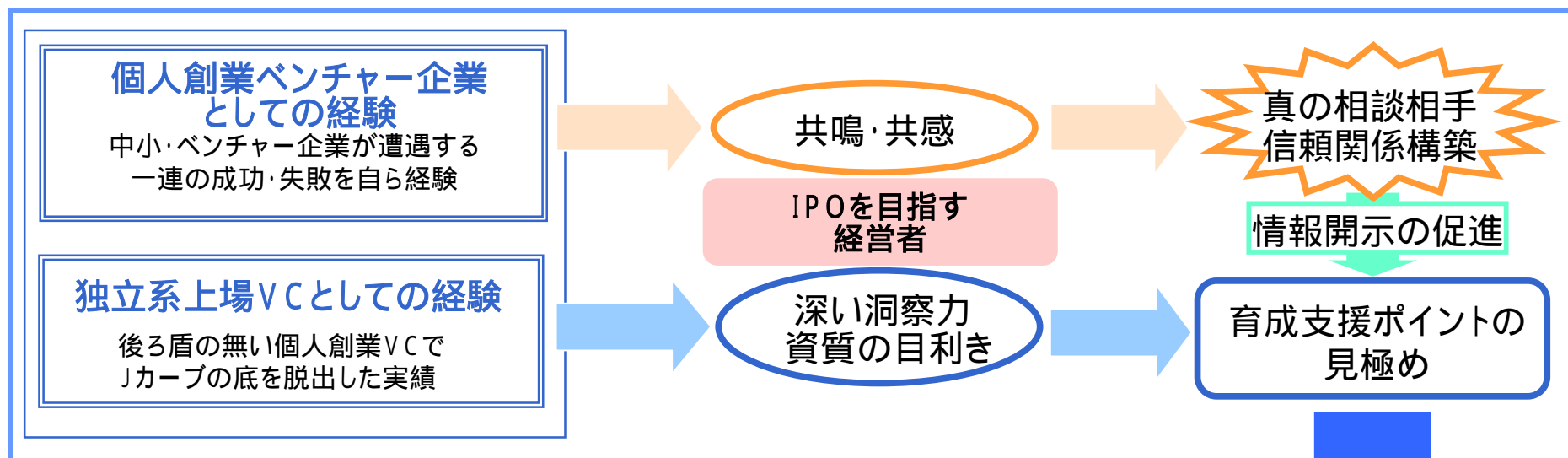
金沢事務所  
投資担当者 2名

岩手事務所  
投資担当者 3名

三重事務所  
投資担当者 2名

愛媛駐在  
投資担当者 1名

日本では、経営者を簡単に変えることができない現状が未だ存在しています。  
だからこそ、**経営者の資質への目利きが重要**です。



### 1、経営者の資質

- ・ IPOを前提とした企業活動
- ・ 本気か否か(熱意、情熱、誠実さ)
- ・ 素直さ(信頼関係を構築出来るか否か)
- ・ 経営者の年齢 知力・体力
- ・ 実行力
- ・ バランス感覚
- ・ リーダーシップ
- ・ 経営チーム構成などの評価。

### 2、市場の規模・成長性

外部機関を利用したマーケット調査や技術評価、日々の情報収集活動による分析。流行業種に過度に集中することがないように、分散投資を徹底して行います。

### 3、事業性・参入障壁

投資候補企業の取引先(5社以上)のヒアリングやFVCの外部ネットワークの専門家の助言も参考にFVCが判断。

# (参考資料) 育成支援の内容

## 投資育成基本方針

投資担当者  
一貫性

信頼関係の  
構築

積極的な  
経営関与

非常勤取締役派遣社数  
21社

### 定期訪問

原則、月に一度は投資企業への訪問することを徹底します。定期的に訪問することで投資企業の**タイムリーな状況把握**を行うとともに投資企業にとってはIPOに対する再認識を促す効果とよい意味での緊張感を生みます。

### マッチングサービス

販売先・仕入先や提携先、各金融機関(ファイナンシャルアレンジ)、監査法人、弁護士・弁理士、技術評価機関、証券代行・人材紹介会社等、投資企業の状況に応じてFVCネットワークを適材適所に紹介します。

### アドバイス業務

事業計画・資本政策を始め、組織変革及び教育を含む人事全般、株式公開準備等その他様々な戦略に対してアドバイスをを行います。

### 決議機関への参加

投資企業の役員会・経営会議・営業会議・開発会議等の決議機関へ積極的に参加し投資企業の成長戦略について共に考えることで**将来ビジョンを共有**します。またそれにより投資担当者と投資企業の経営陣・従業員の方々との一体感が増します。

### 直接業務支援

現場主義の延長上の支援として直接業務支援があります。様々な規定の整備や必要資料の作成及び販促活動・営業活動を支援します。こうした**生きたハンズオン**(支援)の実践は他の機関にはない差別化の一つであると自負しております。

### ハンズオン委員会との連携

投資企業への育成・支援は若手投資担当者とシニアがペアとなって取り組みますが、**育成・支援の状況をチェックし、今後の方針を論議する機関**として、ハンズオン委員会を設けております。